2024 年 7 月 12 日

学校法人三幸学園
札幌こども専門学校
校長　山根　治彦　殿

学校関係者評価委員会
委員長　髙橋　奈妙

学校関係者評価委員会実施報告

2023 年度学校関係者評価について、下記のとおり評価結果を報告します。

記

1　学校関係者評価委員
① 髙橋　奈妙　（飛鳥未来高等学校札幌キャンパス　教頭）
② 川原　祥吾　（株式会社共立メンテナンス　寮事業本部札幌支店）
③ 岩田　美穂　（社会福祉法人江別わかば福祉会　あかしや保育園　教諭　卒業生）

2　学校関係者評価委員会の開催状況
2024 年 6 月 14 日（会場　札幌こども専門学校本館　303 教室）

3　学校関係者委員会報告
以下「自己評価・学校関係者評価報告書」に学校関係者評価委員会コメントとして記載

以上

2023 年度 学校法人 三幸学園 札幌こども専門学校
自己評価ならびに学校関係者評価報告書

自己評価報告責任者 ： 副校長 小島 健太郎
学校関係者評価報告責任者 ： 学校関係者評価委員会委員長 髙橋 奈妙

1. 学校の教育目標

学園のビジョン「人を活かし、日本をそして世界を明るく元気にする」、ミッション「人を活かし、困難を希望に変える」のもと、保育分野の学校として「こどもを育み、人・社会を活性化することで日本を明るく元気にする」というビジョンを掲げている。
また「技能と心の調和」を教育理念とし「素直な心、感謝の気持ち、高い意欲を持ち続け、自ら考え、自ら行動することで、社会に貢献する人材」、保育分野として「皆から信頼・感謝されるこどもの未来を育む人材」を育成する人物像とし、専門学校として社会・業界に求められる人材の育成を進めている。

2. 前年度に定めた重点的に取り組むことが必要な目標や計画

① 前年度重点施策振り返り

（1）退学率低減、生徒満足度向上のための取り組み

◆退学率 5.0%以内 結果：退学者：47 名（2023 年度 53 名） 退学率：8.3%（2022 年度最終：10.0%）
オンラインから対面授業への復活に向けて、「チーム・ペア担任制」2 年目として前年度の課題を改善できるよう取り組んだ。担任間での迅速な情報共有、自クラスの授業見学の強化、特待生として入学した生徒が中心となりクラス内の交流を深めるランチミーティング。退学するか悩んでいる生徒に対して担任以外の教員が面談を実施する対応等。様々な取組みの結果、前年度に比べて退学率 1.7%減少と一定の効果はあった。

◆学校生活アンケート（問18）あなたは本校に入学して良かったですか？
3.3 以上 結果：3.07 （2022 年度:3.13）
「チーム・ペア担任制」がうまく機能したクラスとそうでないクラスの差が大きかった。担任がホームルーム以外に授業をもち授業力向上と授業満足度向上を図ったが、授業準備が負担となり、生徒の悩みや気持ちの変化にすぐに対応することができず、期待していた効果を得ることができなかった。「全道から愛され必要とされる学校づくり」を目標に掲げて、3 年前より学校運営をしてきているが、学校生活アンケート結果だけを見ると 3 年前から比べて減少傾向にあるため、原因を精査して改善に取り組んでいきたい。

（2）再実習者を減らすための取り組み

◆再実習者の割合
△こども総合学科 3 学年：2%以内（2022 年度 2.5%）**3.9%**
△こども総合学科 2 学年：5%以内（2022 年度 6.3%）**7.6%**
▼保育科 2 学年（小田原短期大学併修あり）：4%以内（2022 年度 4.2%）**0.6%**
▼保育科 2 学年（保育士のみ）：6%以内（2022 年度 8.3%）**1.6%**
実習への Step を見える化し、目標を具体化する。学生も教科教員もエリア担当、担任も意識を同じくできる仕組みを作った（セルフチェックシート実施）。ホームルーム等で実習の意識づけを実施し、生徒の意欲向上を図る。

（主に実習ガイダンス等行事にて意識づけ実施）支援が必要な生徒へのサポート体制構築（こどもアカデミーの実施）等の対策を実施した。

（3）本校のイメージ UP と認知拡大の取組み

他校との明確な差別化を図るために、地域住民の皆様から愛され必要とされる取組みを実施（子育て支援・SDGs・あそびのひろば・ボランティア活動）。入学者が減少している実態があるため、保育科（2年制）とこども総合学科（3年制）の異なる魅力の発信、入学したいと思える学校の雰囲気の構築・生徒一人一人に合わせたあきらめない教育の取組みを入学希望者に伝わるよう工夫して、広報活動を実施した。

② 学校関係者評価委員会コメント

・在学中に出ていた退学者の主な理由は人間関係だったと感じている。環境の変化の中で様々な人と出会い、他の業界に魅力を感じていったのではないか。（岩田委員：こども総合学科について）

・通信制高校においては、登校頻度を選択することができるため、登校頻度の高い学生と、登校頻度を少なくしている学生がいる。進路指導するにあたり、現在の登校頻度からどの程度まで高くすることができるか、を見極めている。高校内でも、進学後はどのような環境になるのか、とは伝えているが、高校 3 年間では変わり切れない生徒がいるのも現状である。ひとりひとりに応じた進路指導を行っており、進学後に挑戦したいという生徒もいる。（髙橋委員：こども総合学科・保育科について）

・自分が思っている以上にできる/できない、という生徒もいるのが現状である。そのギャップで打ちのめされてしまう生徒も多いため、高校時代に自己分析を行うことも大事なのではないかと考えている。（髙橋委員：こども総合学科・保育科について）

・先日「退寮したい」という連絡があった。その理由は学校に通い切れていないこと、ホームシックや人間関係でうまくいかないため、まずは家に帰りたいということだった。札幌市内では、毎年入寮者の約5～8%が退学を理由に退寮している。退寮の連絡が入った時点で、既に退学を決めている子が多い。寮でもひとりで食事をとっていたりする学生がいた場合は、声をかけたり、趣味が合いそうな子、同じ学校の子を引き合わせたりしている。しかし寮でできることも限度があるため、何かできることはないか模索中である（川原委員：こども総合学科・保育科について）

・チーム担任制は、個人的には好きだった。自身の性格や相談事によって先生を選べたことがメリットである。シングル担任制は学生たちと信頼関係を築けるので良いとは思うが、生徒の個性に合わせた対応をするのであればチーム担任制がいいと思った。中には担任ではなく、講師の先生だけに相談しているという学生もいたため、もっと担任と講師の交流を増やしても良いのではないか。（岩田委員：こども総合学科・保育科について）

・授業内容については、保育現場に出ていたことがある先生には、保育現場での話をもっとしてほしかった。1 年生の時は保育現場のイメージを付けるためにも授業の内容の中で、現場の話を聞かせてもらう機会を増やすこと、また子どもたちと接する時間が増えるとより良くなると感じた。カリキュラムである地域支援実践は任意科目になっていると思うが、現場に行って学ぶ機会であるため、多くの生徒がこの科目を活かしていってほしいと感じる。地域支援実践で保育園に行った方が現場経験も積めるし、現場を知る機会になり、非常に良い取り組みだと感じた。自身は教育実習で精神的に辛い場面もあったので、早く知り、準備するためにも、少しでも多く子どもたちや保育現場に触れてほしい。（岩田委員：こども総合学科について）

・現在の高校では基本担任メンバーは 3 クラス、約 80 名前後の学生を受け持っている。クラスには副担任が必ずおり、もし担任が不在の場合は副担任がサポートをする。学生対応は全て職員室でするため、教務事務、経理

事務、副校長や講師も対応している。対応内容については、全て Teams 内に入力している。また、毎週なんでも相談室を設定しており、スクールカウンセラーとは違う内容で、担任には言えないこと、今更聞けないこと、などが話せるように設定している。相談があった際に担任に伝えておくね、だけではいつ担任に会えるかわからないため、すぐに対応できるような対応をしている。事前予約も可能。（髙橋委員：こども総合学科・保育科について）

・実習は不安しかなかった。再実習者になった友人が話していた内容としては、園の方針にあわせなければいけないところもあると思うが、自分がやりたい保育とずれてしまうと中々うまくいかない。また、自分はできていると思っても、いざ実習を行うとできていないところもあると思うし、園の方針や指導によっても変わってくる。指導案の確認をしてもらう時点で沢山赤入れをもらうことで心が折れてしまう学生もいる(岩田委員：こども総合学科について)

・寮長寮母が毎日管理日報をあげてくれる。精神的に落ち込んでいる学生報告を見ると、札幌こども専門学校の学生もおり、寮長寮母に話を聞いてもらうと実習前でナーバスになっている学生もいた。
（川原委員：こども総合学科・保育科について）

・現在勤めている勤務先に大学生が 1 日保育現場体験で来たが、身だしなみや挨拶などもない。学校でそういったものを教えてもらえたのは本当に良かったと思う。（岩田委員：こども総合学科について）

・札幌こども専門学校の学生たちは、授業で段ボールや牛乳パックを使用することが多いようで、寮長寮母から連絡があったが、できるかぎり協力はしたい。（川原委員：こども総合学科・保育科について）

・通信制高校とはいえ、自分で何でもできる生徒もいる。しかし何でもできる生徒の方が、卒業生アンケートで「入学して良かった」を低くつける生徒が多い。理由として考えられるのが、自分ひとりでは何もできない生徒に手厚くしてしまう傾向があるため、実際に自分で何でもできる生徒たちに向けて、何かこちら側で実施していかないと、学校不満となり、退学に結びついてしまうことも多い。学校生活が好調な生徒程、見えない部分が多いので気を付けた方が良い。あとは家庭環境も大きく影響している部分も多く、保護者の声が大きければ大きいほど自分の意見を言えない生徒たちが多い。なんでも自分でやろうと思っていたけど、できなくて折れてしまう生徒もいる。家庭環境にも目を光らせた方が良い。現在は入学前保護者説明会などで気になる保護者がいれば、すぐにメンバーに共有するようにしている。（髙橋委員：こども総合学科・保育科について）

・あそびのひろばに参加したことがある。その日はちょうど保護者のみが参加している日だった。オープンキャンパスの場合は、年齢が近い高校生対応が多いので話しやすいと思うが、あそびのひろばだと保護者とも話せるので良い経験になった。（岩田委員：こども総合学科について）

・保育者は保護者対応が必須になるので、あそびのひろばのような場所で、しっかりと保護者対応をしてくれた生徒と、保護者には中々話しかけられない生徒もいたのは事実。あそびのひろばは子ども達と関わる機会でもあるが、保護者と関わる機会もあったので、是非多くの生徒に参加してもらいたいと感じた。
（髙橋委員：こども総合学科・保育科について）

3.評価項目の達成及び取組状況

(1)教育理念・目標

【評価項目】（評価＝適切:4、ほぼ適切:3、やや不適切:2、不適切:1）	評価
学校の理念・目的・育成人材像は定められているか（専門分野の特性が明確になっているか）	4
社会経済のニーズ等を踏まえた学校の将来構想を抱いているか	3
学校の理念・目的・育成人材像・特色・将来構想などが生徒・保護者等に周知されているか	4
各学科の教育目標、育成人材像は、学科等に対応する業界のニーズに向けて方向づけられているか	4

① 課題

1)業界のニーズの把握は、尽きることがないので、地域との連携や情報収集強化は常に必要。

② 今後の改善方策

❶生徒に対しても、入学時の説明で上記については説明を行い、周知を図る。
業界のニーズを把握する点は、“エリア担当“が実習巡回時に業界ニーズを収集することで、常に最新の業界の動きを把握し、本校姉妹校合同会議等にて検討し、カリキュラム作成にも生かしていく。また、地域とのかかわりを強化するべく、訪問を数多くおこない、業界の動きに柔軟に対応し続ける。

③ 特記事項

特になし

④ 学校関係者評価委員会コメント

・エリア担当教員ともっと関われる機会が多いと良い。担任でなければ、顔もわからないのはもちろん、どういった教員なのかわからないので、実習巡回に来てくれたとしても中々話せないところもある。
（岩田委員:こども総合学科について）

・次年度入学生より、ギガスクール構想の中で育った生徒が多い。タブレットを使用しながら授業を受けることが当たり前の生徒なので、保育業界に進むことでデジタルからアナログになることのギャップを感じる子は多くなる。今の生徒たちは、デジタル機械などを使用することで、自分で情報を取りに行くことは得意にはなるが、デジタルとアナログ、どちらも並走しながら教育をしていく必要がある。
（髙橋委員:こども総合学科・保育科について）

(2)学校運営

【評価項目】（評価＝適切:4、ほぼ適切:3、やや不適切:2、不適切:1）	評価
目的等に沿った運営方針が策定されているか	4
事業計画に沿った運営方針が策定されているか	4
運営組織や意志決定機能は、規則等において明確化されているか、有効に機能しているか	4
人事、給与に関する制度は整備されているか	4
教務･財務等の組織整備など意思決定システムは整備されているか	4
業界や地域社会等に対するコンプライアンス体制が整備されているか	4
教育活動に関する情報公開が適切になされているか	4
情報システム化等による業務の効率化が図られているか	3

① 課題

1)情報システム化については、infoClipper という学生管理システムと、SANKOGATE という学内ポータルサイトを使用して授業の効率化･成績の効率化を図っているが、連動の不具合への対応や、現場での出欠把握と入力内容のチェック機能についてはまだ改善の余地がある。

2)コンプライアンスについては、認識を統一するなど、より一層意識を向上させる必要がある。

② 今後の改善方策

❶システムの効率化が図れる一方、公認欠席等で出欠情報がのちに変更になる際の手順が定着していない。現在は教科教員による入力と、担任による確認作業が複雑となっているため、確認作業を事務の一本化をして着実な管理ができるよう改善を図る。

❷コンプライアンスについては、全国の事例を共有する機会を設け、意識が低下しないよう学ぶ機会を増やす。

③ 特記事項

特になし

④ 学校関係者評価委員会コメント

･寮でも一昨年より、入寮者専用アプリをダウンロードしてもらい、食事の注文ができるようになった。そのアプリでは LINE のような形で寮長寮母とも連絡が取れるようになったし、外泊届もアプリで申請できるようになった。
（川原委員:こども総合学科･保育科について）

･今年度よりシステムが変わりエラーが続いている。システムはあるが使いこなせていないのが現状。高校はタブレット上に書き込みしたり、Google クラスルームや Meet を使用したりするが、年齢の高い教員がアナログな授業を実施する傾向がある。学生からしてみれば、タブレットがあるのになぜ使わないのか、という話がでてくる。
（髙橋委員:こども総合学科･保育科について）

･Sankogate は見たり見ていなかったりした学生もいた。見ていた子がクラスに発信をしてくれているが、個人が見るという習慣を身につける必要がある。
（岩田委員:こども総合学科について）

(3)教育活動

【評価項目】（評価＝適切:4、ほぼ適切:3、やや不適切:2、不適切:1）	評価
教育理念等に沿った教育課程の編成･実施方針等が策定されているか	4
目標の設定として、教育理念、育成人材像や業界のニーズを踏まえた教育機関としての修業年限に対応した教育到達レベルや学習時間の確保は明確にされているか	4
学科等のカリキュラムは体系的に編成されているか	4
キャリア教育･実践的な職業教育の視点に立ったカリュキュラムや教育方法の工夫･開発などが実施されているか	4
関連分野の企業･関係施設等、業界団体等との連携により、カリキュラムの作成･見直し等が行われているか	4
関連分野における実践的な職業教育（産学連携によるインターンシップ、実技･実習等）が体系的に位置づけられているか	4
授業評価の実施･評価体制はあるか	4
職業に関する外部関係者からの評価を取り入れているか	4
成績評価･単位認定の基準は明確になっているか	4
資格（免許）取得の指導体制、カリキュラムの中での体系的な位置づけはあるか	4
人材育成目標に向け授業を行うことができる要件を備えた教員を確保し、組織できているか	4
関連分野における業界等との連携において優れた教員（本務･兼務含め）の提供先を確保するなどマネジメントが行われているか	3
関連分野における先端的な知識･技能等を修得するための研修や教員の指導力育成など資質向上のための取組が行われているか	3
職員の能力開発のための研修等が行われているか	4

① 課題

1）　教職員向けの研修の実施回数を検討。

教職員向けの研修は、三幸学園全体として積極的に学べる環境となっているが、関連分野に限るとまだできることがある。実習先からいただいた情報の収集と活用がまだ不十分であるため、巡回や訪問の仕方を見直し、保育施設との関係性の構築を図り、実習生に求めることや保育現場の現状を掴み、適宜研修等を実施し、生徒指導に生かしていきたい。

② 今後の改善方策

❶全体会議にて教職員向けに研修を行う

❷就職･実習にて関連企業にご意見いただいたことを共有する場として、定期的に勉強会を開き、保育に関する情報知識を全メンバーが身に着けられるようにしていく。

③ 特記事項

特になし

④ 学校関係者評価委員会コメント

・ICT に弱い寮長寮母もいるので、ICT 研修や今の時代に合わせたコンプライアンス研修なども行なっている。（川原委員：こども総合学科・保育科について）

・高校分野でも年4回の研修を行っている。（高橋委員：こども総合学科・保育科について）

(4)学修成果

【評価項目】（評価＝適切：4、ほぼ適切：3、やや不適切：2、不適切：1）	評価
就職率の向上が図られているか	4
資格（免許）取得率の向上が図られているか	4
退学率の低減が図られているか	2
卒業生・在校生の社会的な活躍及び評価を把握しているか	3
卒業後のキャリア形成への効果を把握し学校の教育活動の改善に活用されているか	3

① 課題

1） 年間を通して退学率の改善が図れなかった。中でも「人間関係」「目標喪失」を理由に退学をする生徒も増えている。

2） 就職後について、全国で卒業生向けのアンケートを実施し定着率等を測っているが、実際には早期退職者がどのくらいいるのかが把握しきれていない。また、卒業生の状況を把握する機会が少ないため、教育活動に反映させられていません。

② 今後の改善方策

❶対人関係の悩みが増えることの退学防止策としてシングル担任制を定着させ、生徒の悩みに迅速に対応できるようにする。またカウンセリング体制を整え、オフィスアワーによる個別対応の実施や、放課後フォローアップによる学習の遅れを防止、クラス替え廃止等の検討も行う。

❷退職者の数値データの把握をし、就職後に想定できるギャップ、人間関係、早期退職のリスクなど、現場経験者からの体験も含め働くことのやりがいを伝える機会を増やす。

❸卒業生と交流する機会を設け、情報を把握できるように引き続き分析を行い、効果的な新しい対策を打ち出していきたい。

③ 特記事項

特になし

④ 学校関係者評価委員会コメント

・姉妹校へ進学した生徒の状況の把握はしやすい。遊びに来る学生から情報を得られる。他校に進学した生徒についても定着率を図ることを目的とした、卒業生との繋がりを意識した取り組みをしている。

（高橋委員：こども総合学科・保育科について）

(5)学生支援

【評価項目】（評価＝適切:4、ほぼ適切:3、やや不適切:2、不適切:1）	評価
進路･就職に関する支援体制は整備されているか	4
学生相談に関する体制は整備されているか	4
学生の経済的側面に対する支援体制は整備されているか	4
学生の健康管理を担う組織体制はあるか	4
課外活動に対する支援体制は整備されているか	4
学生の生活環境への支援は行われているか	4
保護者と適切に連携しているか	4
卒業生への支援体制はあるか	3
中途退学者への支援体制はあるか	3
社会人のニーズを踏まえた教育環境が整備されているか	4
高校･高等専修学校等との連携によるキャリア教育･職業教育の取組が行われているか	4

① 課題

1)求人票データ化を実施。生徒･卒業生は SANKOGATE にて随時確認できるようにしていたが、求人情報の更新をタイムリーに行えるよう改善が必要。

2)卒業後のサポートシステムを活用しきれていない。

② 今後の改善方策

❶求人情報を滞りなく、原則即日発信できる仕組みを作る。

❷卒業生向けには同窓会 sankolink、または SANKOGATE を活用し、求職者への呼びかけなどこちらからも発信していく。

③ 特記事項

特になし

④ 学校関係者評価委員会コメント

･同窓会 LINK や公式LINE、卒業後数年後にアンケートを学園本部を通して実施しているが、公式LINEなどは登録されていない(岩田委員:こども総合学科について)

(6)教育環境

【評価項目】（評価＝適切:4、ほぼ適切:3、やや不適切:2、不適切:1）	評価
施設･設備は、教育上の必要性に十分対応できるよう整備されているか	4
学内外の実習施設,インターンシップ,海外研修等について十分な教育体制を整備しているか	4
防災･安全管理に対する体制は整備されているか	4

① 課題

1） 教育環境の向上を目的に新しく校舎を建てたが、校舎が増えることにより、生徒対応に目が行き届かない場面もあった。

② 今後の改善方策

❶空き教室の活用方法を考え、より良い教育環境を提供できるよう工夫していく。

③ 特記事項

特になし

④ 学校関係者評価委員会コメント

特になし

(7)学生の受入れ募集

【評価項目】（評価＝適切:4、ほぼ適切:3、やや不適切:2、不適切:1）	評価
学生募集活動は、適正に行われているか	4
学生募集活動において、教育成果は正確に伝えられているか	4
入学選考は、適性に行われているか	4
学納金は妥当なものとなっているか	4

① 課題

1） 18歳人口減少に伴い、来校者が例年に比べ減少している。

② 今後の改善方策

❶保育業界や学校の魅力を伝える機会を増やすための、体験内容や見学会の企画検討、また質の高い教育の提供を職員一人ひとりが意識を持ち、自信を持って学生募集活動ができる状態をつくる。

③ 特記事項

特になし

④ 学校関係者評価委員会コメント

･スクーリング等で土日登校することがある件について、現在も伝えているが、しっかりと認知してもらえるよう、さらにオープンキャンパス等の機会で伝えられるようにしていく。（小島副校長:こども総合学科･保育科について）

(8)財務

【評価項目】（評価＝適切:4、ほぼ適切:3、やや不適切:2、不適切:1）	評価
中長期的に学校の財務基盤は安定しているといえるか	4
予算･収支計画は有効かつ妥当なものとなっているか	4
財務について会計監査が適正に行われているか	4
財務情報公開の体制整備はできているか	4

① 課題

【中長期計画】

特になし

【予算･収支計画】

特になし

【会計監査】

特になし

【財務情報の公開】

特になし

② 今後の改善方法

【中期計画】

今期は第 3 次中期計画(2023 年度～2027 年度)の初年度であり、ホームページ上に公開している。今後は当該計画の達成状況等についても公開予定である。

【財務情報の公開】

特になし

③ 特記事項

特になし

④ 学校関係者評価委員会コメント

特になし

(9)法令等の遵守

【評価項目】（評価＝適切:4、ほぼ適切:3、やや不適切:2、不適切:1）	評価
関係法令、専修学校設置基準等の遵守と適正な運営がなされているか	4
個人情報に関し、その保護のための対策がとられているか	4
自己評価の実施と問題点の改善に努めているか	3
自己評価結果を公開しているか	4

① 課題

自己評価による問題点に対し、改善内容が目標に達していない項目もある。

② 今後の改善方策

問題の分析と改善点の見直しを継続して行う。

③ 特記事項

特になし

④ 学校関係者評価委員会コメント

・毎年課題を見つけて改善に努めていきたい（小島副校長:こども総合学科・保育科について）

(10)社会貢献・地域貢献

【評価項目】（評価＝適切:4、ほぼ適切:3、やや不適切:2、不適切:1）	評価
学校の教育資源や施設を活用した社会貢献・地域貢献を行っているか	4
生徒のボランティア活動を奨励、支援しているか	4
地域に対する公開講座・教育訓練（公共職業訓練等を含む）の受託等を積極的に実施しているか	4

① 課題

1）産学連携では、あそびの広場が「札幌市」（こども未来局子育て支援課）と「札幌市教育委員会」（教育委員会生涯学習推進課）で後援許可をいただき、広く告知ができているが、参加者が少ない日もある。

② 今後の改善方策

❶各保育施設や広告期間（ラジオ・新聞社）へチラシを配布し、あそびの広場の取り組みについて広めていく

③ 特記事項

特になし

④ 学校関係者評価委員会コメント

特になし

4. 学校評価の具体的な目標や計画の総合的な評価結果

・担任の先生と話す時間がもっと欲しかったので、できる限り教室に顔を出してほしいと思っていた。また、授業の一環でエプロンシアターの作成・実践を行っていたため、クラスメイトの前で披露をするという耐性ができていたおかげで子どもたちの前でも滞りなく実施することができた。更に欲を言えば、活動と活動の合間にできるペープサート、スケッチブックシアター等があるといいと思う。今後は、更に実践的な授業がもっとあってもいい。例えば先生がこどもになりきって生徒が教員役を演じるなどそういったものがあると良い。
（岩田委員：こども総合学科について）

・学校の教育内容については姉妹校だからこそ理解している部分もあるが、札幌市内の学校全てについて理解しているわけではないので、進学後に思っていたものと違ったというギャップを感じることがないように、高校側としても進学後の目指すべき人物像に目を向けて、生徒本人のやりたい道に向かうことができる環境を作りたいと思う。今後もし可能であれば高校教員を招いた学校説明を実施すると良いのではないか。
（高橋委員：こども総合学科・保育科について）

・入寮している札幌こども専門学校の学生たちの印象としては、特に元気な挨拶をしてくれている印象である。それはきっと学校で基本的なマナーの指導をしている成果だと感じた。今後も一人でも多くの卒業生を送り出していただきたいと感じている。（川原委員：こども総合学科・保育科について）

・いただいたご意見を活かし、より良い学校運営ができるよう、今後も尽力していきたい。
（小島副校長：こども総合学科・保育科について）

以　上